

## 「岩戸疱瘡踊り」の伝承活動の取組

### 1 学校名

鹿児島市立花尾小学校

### 2 学年・人数

小学3年生～6年生女子（12名）

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

学習発表会前の総合的な学習の時間（花尾小体育館）

#### (2) 発表の日時・場所

11月の学習発表会（花尾小体育館）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

#### (1) 岩戸疱瘡踊り（いわどほうそうおどり）

#### (2) 由来

岩戸疱瘡踊りは、藩政時代から踊り継がれてきた古い踊りであると言われている。昔、恐ろしい伝染病である天然痘が蔓延したことがあり、その予防と早い治癒を願って踊るもので、真剣な祈りの心が込められた優雅な踊りである。天然痘が絶滅し、踊りも一時途絶えていたが、終戦後に復活し、今では地域の行事や花尾神社の大祭、地区の文化祭などで踊られている。

#### (3) 構成等

この踊りは、前踊りと後踊りで構成されている。前踊りは、手踊り20名くらいに太鼓打ちと太鼓持ちが6組ほどで、三味線に合わせて踊り、手踊りの中に傘踊りも入る。後踊りは、黒装束の3名の大シベ持ちがいて、そのシベ持ちの後ろに踊り子がつく。踊り子は小シベを持ち、横3列から4列ぐらいでシベ踊りをする。その後、踊り子が円になって踊り、大シベ持ちは円の中に入る。音楽は三味線と太鼓と拍子木等を使う。踊り子の服装は豆絞りの手ぬぐいに、赤の長襦袢、浴衣（昔は緋）に白足袋姿で踊る。

平成17年に鹿児島市の無形民俗文化財に指定された。

### 5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間に、伝統芸能の継承として位置付けられ、授業の中で練習をしている。講師は保護者の方にお願ひし、子どもたちは学習発表会前は、昼休みなどの時間も自主的に練習する姿が見られる。地域の方から傘踊りに必要な用具等は借用している。

### 6 活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら岩戸疱瘡踊りを継承していくために、3年生から6年

生までの4年間学ぶ。保護者や地域の方々から教わった踊り方を4年間実践することで、高学年になると新しく学ぶ3年生を指導することができるようになっている。発表の場を学習発表会のプログラムの中に位置付け、保護者だけでなく地域の方々にも案内し、観てもらっている。

## 7 取組の様子



学習発表会で踊りを披露する子どもたち

## 8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

早く浴衣を着て踊ってみたかった。(3年女児から)

初めて踊る3年生に教えると、その子たちがどんどん上達して踊れるようになっていくのでうれしい。(6年女児から)

きれいな浴衣が着れて、楽しく踊れるので、毎年楽しみだ。(6年女児から)

校区内には、3つの伝統芸能があり、学校の授業の中で練習を行っているのは岩戸疱瘡踊りだけなので、他の2つ(大平獅子舞踊り、花尾太鼓踊り)をどのように活用していくかが課題である。(教職員から)

女児だけの踊りとなっているので、男の子の関わらせ方が課題である。(教職員から)

指先や視線、姿勢まで細かな点でいうとまだまだであるが、子どもたちが伝統芸能を継承してくれることに感謝している。(保存会から)

子どもたちが「岩戸疱瘡踊り」を通して、自分たちの住む地域を知り、また地域との関わりを持てることに喜びを感じる。(保護者から)